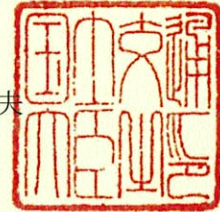


認 定 書

国住参建第 3226 号
令和 6 年 3 月 18 日

J F E 建材株式会社
代表取締役社長 橋本 直政 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0237-2
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
床 厚	80 以上
荷重と支持間隔の 関係	・ 支持間隔 2, 200 以下の場合 自重を含めた全荷重 13.74kN/m^2 以下 ・ 支持間隔 2, 200～2, 700 の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の 2 乗＝66.49kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。)
支 持	単純支持

注) 全荷重＝固定荷重＋積載荷重

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①デッキプレート	・ 規 格 JIS G 3352(デッキプレート) ・ 厚 さ 1.0、1.2、1.6 ・ 山 高 さ 50 ± 1.5 ・ 働 き 幅 $300_{-2\pm 8}$、$600_{-2\pm 8}$ ・ 形状寸法 別添-6 参照 ・ 種 類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)SDP1T(厚さ 1.2、1.6 に限る) (2)SDP1TG(厚さ 1.2、1.6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3
②コンクリート	・ 種 類 普通コンクリート ・ 呼び強度 21～45 ・ 厚 さ デッキプレート山上から 80 以上

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
3 ひび割れ拡大 防止用鉄筋	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)溶接金網 ・規 格 JIS G 3551 ・種 類 (イ)～(チ)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (イ)WFP (ロ)WFC (ハ)WFR (ニ)WFI (ホ)WFP-D (ヘ)WFC-D (ト)WFR-D (チ)WFI-D ・線 径 6 以上 ・間 隔 150 以下×150 以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30 コンクリート外端側面から 30 (2)鉄筋(異形鉄筋) ・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117 ・断 面 寸 法 D10 以上 ・間 隔 200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30
4 梁主筋	・規 格 JIS G 3112 ・種 類 異形鉄筋 (イ)～(チ)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (イ)SD295 (ロ)SD345 (ハ)SD390 (ニ)SD490 (ホ)SD590A, B (ヘ)SD685A, B (ト)SD685R (チ)SD785R ・断 面 寸 法 D13 以上 ・鉄 筋 量 上端 2 本以上 下端 2 本以上 ・かぶり厚さ 上端 梁上面からあばら筋のかぶり厚さ+断面寸法以上 下端 梁底面からあばら筋のかぶり厚さ+断面寸法以上

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
5 あばら筋	・規 格 JIS G 3112 ・種 類 異形鉄筋 (イ)～(チ)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (イ)SD295 (ロ)SD345 (ハ)SD390 (ニ)SD490 (ホ)SD590A, B (ヘ)SD685A, B (ト)SD685R (チ)SD785R ・断 面 寸 法 D10 以上 ・間 隔 200 以下 ・かぶり厚さ 梁上面から 30+ひび割れ拡大防止用鉄筋の断面寸法以上 梁底面から 30 以上 50 以下 梁側面から 30 以上

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①スパーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)鉄材 ・線径、板厚 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上 ・間 隔 1000 以下 (2)セメントブロック ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔(mm)	自重を含めた全荷重(kN/m ²)
2200 以下	13.74 以下
2300	12.57 以下
2400	11.54 以下
2500	10.64 以下
2600	9.84 以下
2700	9.12 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $wL^2=66.49\text{kN}$ 以下であることを確認すること

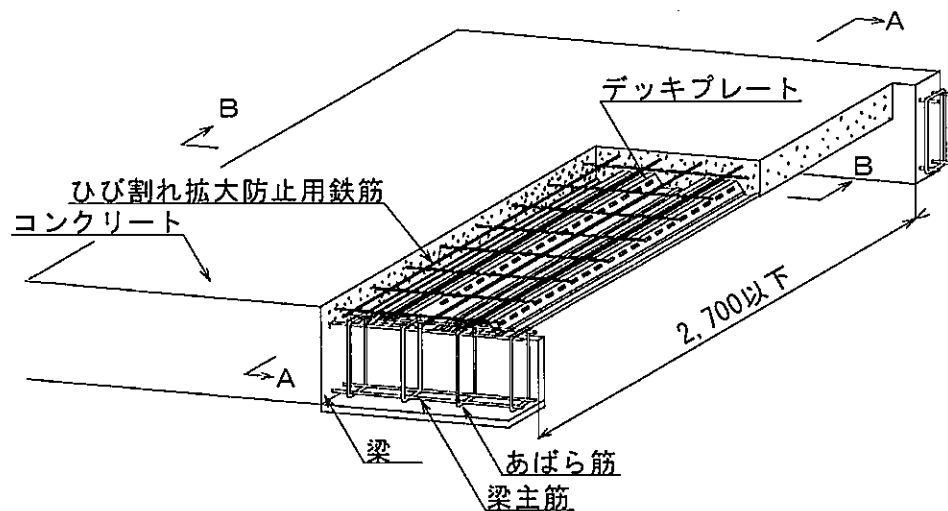
w : 自重を含めた全荷重(kN/m²)

L : 支持間隔(m)

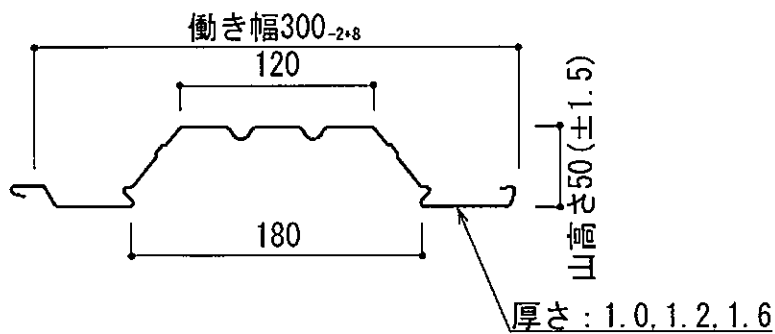
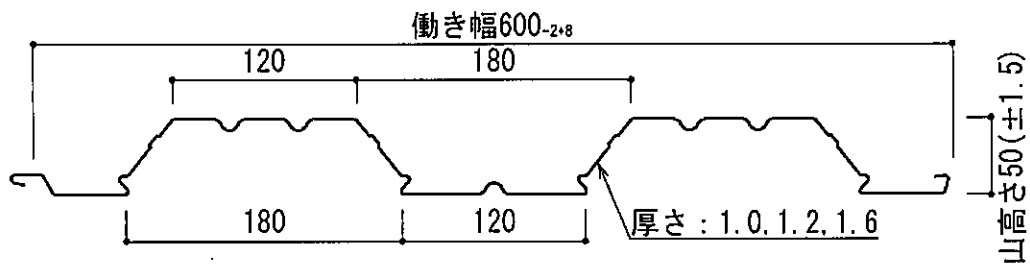
4. 構造説明図

[透視図]

(寸法単位：mm)



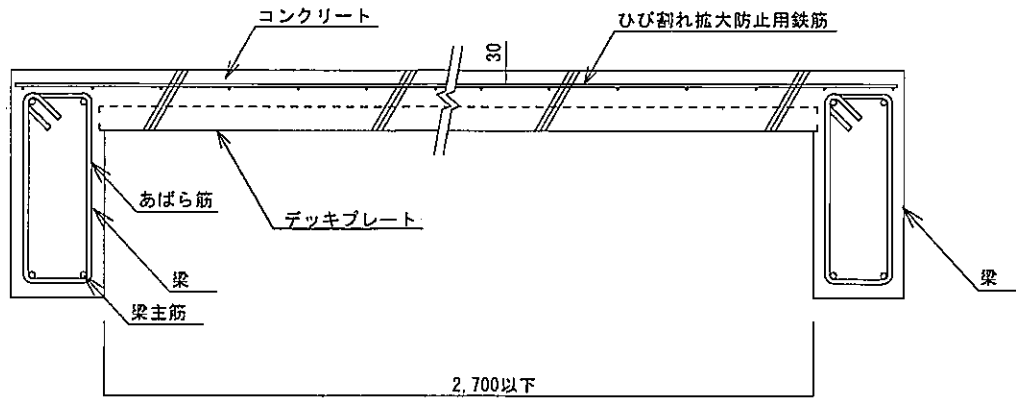
[デッキプレートの形状・寸法]



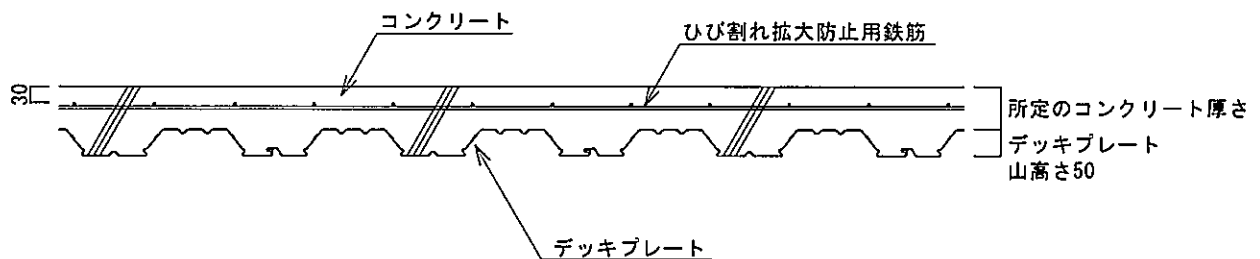
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

[断面図]

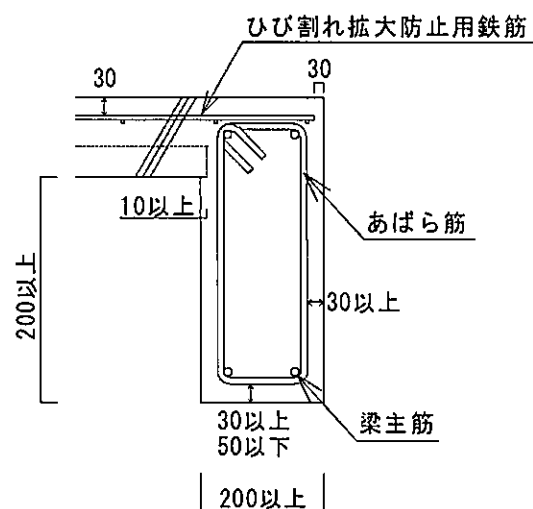
(寸法単位：mm)



A-A 断面図



B-B 断面図



C 部詳細図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等

<施工図>

4. 構造説明図と同じ

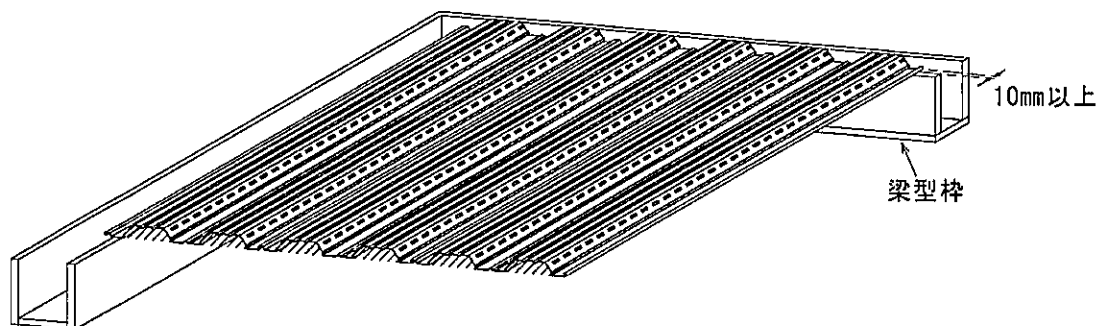
<施工手順>

1) 梁主筋・あばら筋の配筋

所定の径、ピッチ、かぶり厚を確保して支持梁の梁主筋、あばら筋を配筋する。

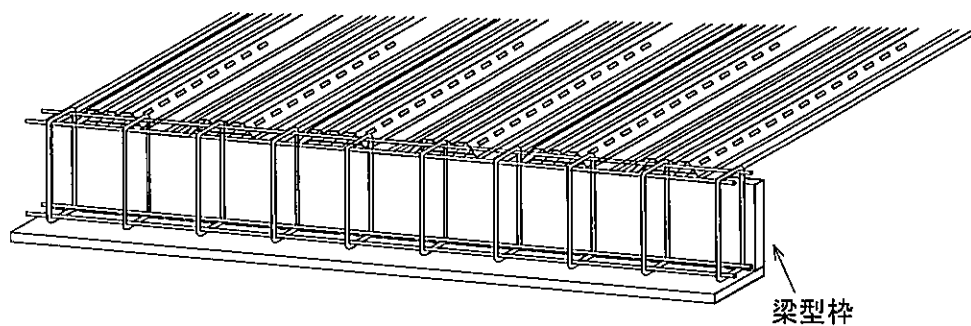
2) デッキプレートの敷込み

支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止めした後、順次適当な枚数間隔（5～10枚）毎に仮止めする。デッキプレートの敷込みは、「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」（日本鋼構造協会）による。



3) 合成スラブと梁との接合

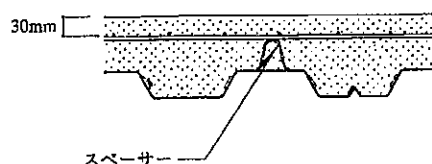
合成スラブと鉄筋コンクリート梁とは、デッキプレートを梁へ10mm以上のみ込ませ、コンクリートによりスラブと梁を一体として接合する。



4) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網、又は、異形鉄筋をスラブ上面より所定のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷きならべる。異形鉄線溶接金網を用いる場合の継ぎ手は、延長筋型重ね継ぎ手とすることができる。延長筋型重ね継ぎ手の継手方法は、GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2 による。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。

配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法の GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2）によるか、または、JASS5 の記載例による。



5) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行い、床スラブの厚さの許容差は JASS5(2022 年)に記載の-5mm、+20mm とする。

6) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

7) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。